NEWS RELEASE

2026年11月12日



2026 SUPER GT 第3/8戦「MOTEGI GT 250km RACE GRAND FINAL」(11/6-8)

モビリティリゾートもてぎ(1周4.801km)

入場者数：11/7（土）第3戦：24,000名、11/8（日）第8戦：33,000名　合計57,000名

SUPER GT 第3/8戦「MOTEGI GT 250km RACE GRAND FINAL」が行われ、11/7（土）第3戦予選で10位、決勝はスタート担当の関口が7位にまで巻き返す力闘を見せ、23周目にピットインしてタイヤ無交換を敢行。一気にトップに躍り出た。その後、ペースの速いクルマにかわされるがサッシャが表彰台を争って激熱バトルを展開。チーム一丸の力戦奮闘を見せた結果、第3戦代替戦は暫定4位となった。11/8（日）最終戦予選で10位、決勝はスタート担当の関口が8位にまでポジションアップしたのちにオーバーカット戦略で最後までピットインを引き延ばし、33周目に暫定トップでピットインして再びタイヤ無交換を敢行。5位付近に合流し、サッシャが表彰台を狙って猛追し36号車と激しいデュエル。90度コーナーで交錯スピンするも戦列に復帰。最後は12号車の猛攻を抑えて3位チェッカー。魅了する戦いぶりであったがレース後の再車検でスキッドブロック（底板）が過度の擦り切れでの残厚が足りず無念の失格に。この2戦でドライバーポイントで8点（計44点）を獲得し年間ドライバーランキング7位に、チームポイントで11点（計62点）を獲得し年間チームランキング8位となった。今季は最後までタイトルを争い、果敢に攻めて追い上げ多くの観衆を魅了するレーススタイルを貫きメディア露出も増えた。来季は複数回の優勝と表彰台を獲得しランキングを上げていきたいところ。引き続き、チーム一丸となって頂点を目指し努力を積み重ね続けていく。

■事前情報



2026年もいよいよクライマックス、第3戦の代替を11月7日（土）に行い、最終決戦となる第8戦「MOTEGI GT 300km RACE GRAND FINAL」を11月8日（日）に行うダブルヘッダー。11月6日（金）午前中に専有走行が90分間実施、その午後に車両検査やブリーフィングを行い、各ラウンド午前中に公式予選、午後に決勝が1日で行われる変則的なレースフォーマット。決勝は14時スタートで、250km（53周：約1時半）で争われ、ドライバー交代を伴うピットストップは1回で1人のドライバーの最大運転周回数は35周まで。サクセスウェイトは、第3戦の土曜が、現獲得ドライバーポイントと同じ36kgを搭載。このサクセスウェイトによるもてぎでのタイムの落ち込みは約0.6秒ほど。第8戦の日曜は、サクセスウェイトがすべてリセットされ0kgとなり、各車イコールの真っ向勝負となる。タイヤの持ち込みセット数は金曜ドライ2セット、土曜3セット、日曜3セット、ウェットは3日間で10セットとなる。各日予選で使えるドライタイヤ1セットがマーキングされ、それが同日の決勝スタートタイヤとなる。各日ウォームアップ走行ではマーキングされたユーズドタイヤも使用できる。

現在ランキング5位につけているDENSO KOBELCO SARD GR Supra。ランキングリーダー36号車とはドライバーランキングで25ポイント差。この週末にフルポイント×2回の42ポイントを取ればタイトル獲得が見えてくる。自分たちの目標は、まずは各レースでグリッド前方を獲得するという最初のミッションをクリアし、シンプルに優勝目指して最後まで全力を尽くすこと。脇阪寿一監督のもとチーム一丸となって、粉骨砕身に目指すは勝利のみとなる。

■専有走行：11月6日（金）



この最終大会では第3戦（代替戦）が7日（土）に、第8戦（最終戦）が8日（日）に開催されるダブルヘッダーとなったため、6日（金）9時30分から専有（練習）走行が行われた。気温21度/路面温度30度で前日の降雨のウェットパッチが残りウェット宣言が出されたコンディションの中、最初の55分間の混走セッションではサッシャが、コース全路面舗装の張替えの影響があるのか見極めながら、ソフト側ドライタイヤでパフォーマンスチェックを行い、7周目に1分38秒723のその時点でトップタイムをマーク。ボラード（コーナーポール）補修のための赤旗中断を挟み、セット調整を行いながら19周ほど走行した。20周目からは関口がステアリングを握り、FCYテスト実施を含みチェッカーまでロングランの確認走行。フルタンクでも、まずまずのフィーリングを感じながらペース良く走行し、10分間延長となった混走セッションはトータル28周を走り込み、サッシャが7周目にマークした1分38秒723のタイムで11番手となった。

11時00分から始まった10分間のGT500単独セッションでは、気温22度/路面温度32度に。サッシャがハード側のドライタイヤを装着して予選のアタックシミュレーションを実施。まだ路面温度が低く、しっかりと芯までタイヤを温めた5周目にアタックを開始、セクタートップと遜色ないタイムで4つのセクターを駆け抜け、1分37秒615のその時点で3番手タイムをマーク。最終的に専有（練習）走行はトータル34周を走行、1秒以内に全車が入る非常に僅差となったGT500単独セッションでサッシャがマークしたタイムで5番手となった。

■第3戦（代替戦）公式予選：11月7日（土）

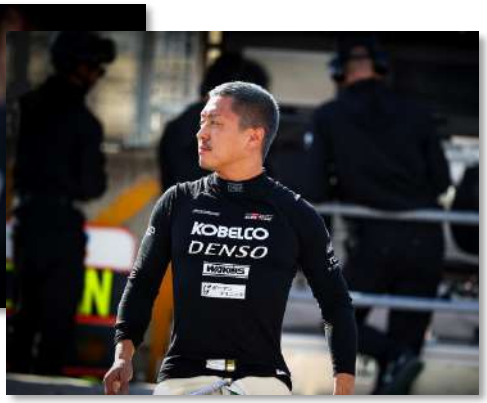
サッシャが好感触も僅差の予選で10番手



7日（土）9時30分から開始され第3戦公式予選は、気温17度/路面温度19度の秋晴れ。通常とは違う午前中の実施でさらに15分間の1回勝負。サッシャはハード側のドライタイヤを装着し、残り10分を切ったところでコースイン。前日のGT500単独セッションのデータやドライバーのフィーリングからアタックラップを6周目と決め、じっくりとタイヤを芯まで入念に温めるウォームアップを遅めのラップタイムで丁寧に5周実施。予定通り6周目にアタックに入るとセクター1をトップと遜色ないタイムのサッシャ。この第3戦にかけるサッシャは気合い十分にステアリングを握り、僅差の争いで少しでも前方グリッドをと闘志をみせるサッシャ。続くセクター2もコース幅いっぱいに攻めていく。セクター3では若干遅れたものの、セクター4で取り戻す渾身のアタックでオーバーステア気味になっていくクルマをねじ伏せてコントロールラインを駆け抜け、1分37秒979の7番計時。チェッカー後に数台にかわされた結果、第3戦（代替戦）の公式予選は10位となった。午後の決勝では5列目10番グリッドからの巻き返しを狙っていく。







■第3戦（代替戦）決勝：11月7日（土）

■ウォームアップ走行

7日（土）12時30分から開始された20分間のウォームアップ走行は、気温17度/路面温度20度の快晴。まず関口が決勝向けタイヤの準備をした後にハード側ドライタイヤを装着しての確認走行。続いてサッシャが8周目からドライブしてチェッカーまで走行。ウォームアップはトータル11周を走行して、サッシャが10周目にマークした1分39秒304で7番手となった。

■決勝レース

第１スティント：関口が7位浮上の力戦をみせる



7日（土）14時決勝スタート時点は気温18度/路面温度21度の快晴。2周のフォーメーションラップの後に、熱戦の火蓋が切って落とされた。オープニングラップで1つポジションを上げ9位となったところで、300クラスのアクシデントからFCY～セーフティカー（SC）導入となる波乱の幕開け。8周目からレースが再開されると、関口が好バトルを展開。9周目10位になるも11周目9位にバウンスバック。その後、多くのクルマがピットインをすると予想されるミニマム周回直前の17周目100号車を抜き8位、18周目36号車を攻略して7位にまでポジションアップの力闘を見せた。タイヤの状況を関口にピットから聞くとまったく問題なしとのこと。ここでピットはある決断を行う。しばらく前が空いた状態でピットインを終えタイヤ交換したクルマと遜色ないラップタイムでプッシュを続けた関口。戦列に戻った時のトラックポジションの好機を考えて23周目にピットインとなった。

第2スティント：タイヤ無交換のサッシャが激しいバトルの末に4位を獲得



ここでタイヤ無交換を敢行。素早く給油とドライバー交代を終え、サッシャが戦列に復帰すると一気にトップに躍り出た。アウトラップと最初の数周にペースの速いクルマにかわされはしたが、丁寧にタイヤを持たせる走りのサッシャは4位に踏みとどまる。最後にピットインし左前タイヤだけ交換した8号車が背後に迫り、バトルの末に35周目に4位の座を明け渡して5位に陥落。だが諦めないサッシャは後半の好機が巡ってくるのを待ちながらタイヤをいたわりつつ他車と遜色ないペースでクルマを運んでいった。40周を超えたところで今度は100号車が迫ってくる。チャンピオン争いの100号車との超接近戦バトルが勃発。幾度もドアをこじ開けられそうになるがサッシャは巧みに防戦。最後は見事に突き放し、チーム一丸の力戦奮闘を見せた結果、5位でチェッカー。暫定リザルトで14号車が失格となり第3戦は4位となった。ドライバーポイントは8点（計44点）を獲得、チームポイントは11点（計62点）を獲得し、ともにランキング6位となった。なお、14号車が審査委員会の裁定に不服として控訴を行ったため第3戦（代替戦）のリザルトは暫定扱いとなっている。







■第8戦（最終戦）公式予選：11月8日（日）

サッシャが前日と同じく10番グリッドに



8日（日）9時30分から開始され第8戦公式予選は晴れで、気温14度/路面温度20度と前日より気温が下がったコンディション。各車両とも予選登録ドライバーは前日第3戦とまったく同じとなった。サッシャは昨日と同じくハード側のドライタイヤを装着し、残り10分を切ったところでコースイン。アタックラップも同じ6周目と決め、入念にタイヤを温め、予定通りに6周目アタックに入る。セクター1を前日から更新、続くセクター2では更新ならずも、セクター3は削ってくる。セクター4では前日のオーバーステアをうまく調整して約0.7秒も削る気合いの走りをみせた。第8戦（最終戦）の公式予選は10位となり、午後の決勝では第3戦同様に5列目10番グリッドからの巻き返しを狙っていく。

■第8戦（最終戦）決勝：11月8日（日）

■ウォームアップ走行

8日（日）12時30分から開始された20分間のウォームアップ走行は、気温16度/路面温度22度の快晴。まずサッシャが決勝後半用のタイヤを準備をした後にハード側ドライタイヤを装着しての確認走行。続いて関口が7周目からドライブしてチェッカーまで走行。ウォームアップはトータル11周を走行して、サッシャが4周目にマークした1分38秒763で9番手となった。

■決勝レース

第１スティント：関口がオーバーカット戦略を見事に完遂



8日（日）14時決勝スタート時点は気温17度/路面温度24度の快晴。栃木県警察先導のパレードラップ、フォーメーションラップの後に最終決戦がスタート。激しい鍔迫り合いの中、2周目に300クラスのアクシデントからSC導入に。5周目からレースが再開されると関口は虎視眈々と前車に追走。14周目に38号車を抜き、15周目には64号車をパスして8位にまでポジションアップ。20周を過ぎ、他のクルマがピットインしている間にトップペースの1分39秒台でギャップを削り、オーバーカット戦略で最後までピットインを引き延ばした。33周目に暫定トップでピットイン、前日に続いてタイヤ無交換を敢行し再び躍進を狙った。

第2スティント：サッシャが激しいデュエルで3位チェッカーも無念の失格に



4位付近に合流し、サッシャが表彰台を狙って猛追し、終盤に3位の36号車と激しいデュエル。46周目に90度コーナーで交錯してスピンを喫するも戦列に復帰。最後は4位12号車の猛攻を抑えて3位でチェッカー。魅了する戦い振りであったがレース後の再車検でスキッドブロック（底板）が過度の擦り切れで規定の残厚に足りずに無念の失格で幻の表彰台となった。最終戦はポイント獲得はならず、年間ドライバーランキング7位（計44点）、年間チームランキング8位（計62点）で2026年シーズンを終えた。

今季はシーズン終盤までタイトル争いを繰り広げ、最後のチェッカーフラッグまで果敢に攻め続けるレーススタイルを貫いた。幾多の困難にも屈することなく、最後まで諦めずにチカラの限りを尽くして追い上げるスタイルは多くの観衆を魅了し、応援してくださる皆さまと熱い感動を分かち合うことができ、この最終決戦の地でも「勇敢にかく戦えり」と注目を集めメディア露出拡大にもつながった。来季は複数回の優勝と表彰台を獲得しランキングを上げていきたいところ。引き続き、チーム一丸となって頂点を目指して絶え間ない努力を積み重ね続けていく。

■関口　雄飛



「今季も、熱い応援をたくさん頂き、ありがとうございました！優勝が無かったのが残念ですが、後半に追い上げて何度も表彰台争いができたことは皆様のご声援のおかげと感謝いたします。安定して上位争いができるようになるには、まだまだ努力が必要ですが、成長して見えてきていると思いますので、今シーズン得た経験やデータを元にシーズンオフに、しっかりと解析して来シーズンに準備していきたいと思います。引き続きご支援ご声援を、どうぞ、よろしくお願い申し上げます」

■サッシャ・フェネストラズ



「このもてぎは土曜も日曜も、とてもタフでエキサイティングなレースになったね。シーズンエンドにふさわしい良い戦いができたと思う。この週末に我々が到達した進歩をとても誇りに思っているし、次のステップに向けて良い土台を固められていると感じている。今シーズンのこれまでのチームみんなのハードワークと努力に感謝している。最後の結果は残念だったけど、最高のシーズンだった。このSUPER GTをとても楽しんだよ。自分の今年の日本でのレースはまだ続くけど、来年のこと、まだワカラナイ。でもみんなと一緒にチャンピオンを取りたいな。ガンバリマショウ！」

■監督　脇阪　寿一



「今季もたくさんの御声援を頂き、感謝申し上げます！2026年シーズンを最終戦までタイトル争いに残って良いレースができたことは、スポンサー様をはじめ、ご支援／サポートして頂いている皆様、いつも熱い御声援を送って頂いているファンの皆様のおかげと深く感謝申し上げます。チャンピオンを獲得した100号車の皆さまと関係者の皆さま、おめでとうございます。我々が成長していることは感じておりますが、まだまだ足りない事も思い知らされたシーズンでした。来シーズンに向けて、またイチから見直して準備して皆さまのご期待に添えられる結果を残したいと思います。引き続き、熱い御声援をどうぞよろしくお願い申し上げます」



■Rd.3 Qualifying Result

Pos.	No.	Car	Driver	Best Time	SW
1	64	Modulo HRC PRELUDE-GT	大草 りき／I.オオムラ･フラガ	1'36.572	2
2	16	#16 ARTA MUGEN HRC PRELUDE-GT	野尻 智紀／佐藤 蓮	1'36.917	35
3	14	ENEOS X PRIME GR Supra	福住 仁嶺／大嶋 和也	1'36.942	31
10	39	DENSO KOBELCO SARD GR Supra	関口 雄飛／S.フェネストラズ	1'37.979	36

天候：晴れ、コース：ドライ

■Rd.3 Race Result (Provisional)

Pos.	No.	Car	Driver	Time/Diff	Laps
1	12	TRS IMPUL with SDG Z	平峰 一貴／B.バゲット	1:38'20.070	53
2	64	Modulo HRC PRELUDE-GT	大草 りき／I.オオムラ･フラガ	+24.076	53
3	8	#8 ARTA MUGEN HRC PRELUDE-GT	太田 格之進／大津 弘樹	+29.255	53
4	39	DENSO KOBELCO SARD GR Supra	関口 雄飛／S.フェネストラズ	+30.649	53

天候：晴れ、コース：ドライ、4.801km×53Laps

■Rd.8 Qualifying Result

Pos.	No.	Car	Driver	Best Time	SW
1	100	STANLEY HRC PRELUDE-GT	山本 尚貴／牧野 任祐	1'36.135	0
2	36	au TOM'S GR Supra	坪井 翔／山下 健太	1'36.413	0
3	64	Modulo HRC PRELUDE-GT	大草 りき／I.オオムラ･フラガ	1'36.458	0
10	39	DENSO KOBELCO SARD GR Supra	関口 雄飛／S.フェネストラズ	1'37.295	0

天候：晴れ、コース：ドライ

■Rd.8 Race Result

Pos.	No.	Car	Driver	Time/Diff	Laps
1	100	STANLEY HRC PRELUDE-GT	山本 尚貴／牧野 任祐	1:34'32.115	53
2	17	Astemo HRC PRELUDE-GT	塚越 広大／野村 勇斗	+1.705	53
3	12	TRS IMPUL with SDG Z	平峰 一貴／B.バゲット	+17.759	53
DQ	39	DENSO KOBELCO SARD GR Supra	関口 雄飛／S.フェネストラズ	-	-

天候：晴れ、コース：ドライ、4.801km×53Laps

■Drivers Ranking

Pos.	No.	Driver	Total
1	100	山本／牧野	85
2	17	塚越／野村	65
3	36	坪井／山下	62
7	39	関口／S.フェネストラズ	44

Point standings after Rd.8

■Team Ranking

Pos.	No.	Team	Total
1	100	STANLEY TEAM KUNIMITSU	108
2	36	TGR TEAM au TOM'S	84
3	17	Astemo REAL RACING	84
8	39	TGR TEAM SARD	62

Point standings after Rd.8

■Partners

■情報参照先

●サード公式ウェブサイト　：https://www.sard.co.jp

X　Facebook　Insta　threads　YouTube　TikTok

●SUPER GT　：https://supergt.net/jp

■本リリースに関するお問い合わせ先：チーム広報担当：宮本　e-mail: media@sard.co.jp

株式会社 サード
www.sard.co.jp
〒473-0914　愛知県豊田市若林東町上外根50
TEL. 0565-53-1166　FAX. 0565-52-5482